

1. 実践研究テーマ

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童・生徒の学力向上を図る

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

○ ICTの効果的な活用について

- ・昨年に続き月に1週間、朝学習の時間(10分間)に生徒がインターネット上の無料で行えるタイピングを活用し、速く、正確に行えるように取り組んだ。
- ・さまざまなアプリ(padlet・CANVA・Kahoot!など)を使用し、生徒が楽しく、かつ主体的に授業に取り組めた。
- ・研究授業では協力校の先生方にも参加していただき、実際に参観者も生徒と同じアプリを使用し、使い方を体験した。
- ・経験年数・教科関係なく研究授業に向けてプロジェクトチームを作成し、指導案検討、ICTの活用法、話し合い活動の方法を検討し、みんなで授業づくりを行った。

○話し合い活動の充実について

- ・OOKIWORKSの大木浩士氏を講師に招き、1日目は、教職員を対象とした効果的な話し合い活動の取り入れ方、2日目は2年生を対象とした話し合い活動の進め方のワークショップを実施した。
- ・生徒会の立候補者による討論会を行い、マニフェストを発表したりそれに対して質問したりした。
- ・今年度も1・2年生による生徒集会(今年度は人権をテーマにする予定)を実施予定。(2月下旬)

○その他

- ・昨年度1・2年生での生徒集会で話し合った内容をもとにポジティブ行動支援マトリクスを改訂し、ポジティブ行動マンダラチャートを作成した。
- ・協力校の小学校2校と授業中のルールについて共有した。



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- ・ICTを使用する頻度がどの教科でも増加し、新しいことにチャレンジしたり今までの授業を改善しようと試行錯誤したりする教職員が増えた。ICT使用を増やすことで出てきた新たな課題をどのように解決するかを考えるようになった。
- ・授業に話し合い活動を取り入れたり、生徒同士で学び合う時間をとったりすることが増えた。それにより教職員も生徒から学ぶことが多くなった。

○ 児童生徒の変容

- ・ICTを活用することによって、視覚的に情報が入るため、理解してくれる部分が多くなった。また自分で調べたことをまとめてプレゼンしたり自分で学ぼうとする姿が見られたりと学びの幅が広がった。
- ・人前で意見を言えない生徒が、少しずつ言えるようになっていたり意見共有ツールアプリを使用することで、伝えられるようになった。

4. 2年間の実践を振り返って

成果は上で述べたように教職員や生徒が授業に対してより主体的に取り組めるようになり、授業により活気が出てきたことである。課題としては、ICT使用や話し合い活動を行うことによって、どのように学力の定着につなげていくかということと、小・中の連携をより密にしていけることが課題である。